

謝辞

日に日に、景色が春の色合いに染まる季節となりました。本日は、私たち卒業生のためにこのような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。学長先生をはじめ、教職員の皆さま、ならびにご来賓の皆さまに、卒業生一同、心より御礼申し上げます。また、学長先生より、旅立つ私たちのための温かい励ましのお言葉を賜りましたことに、重ねて御礼申し上げます。

卒業という一つの節目を迎える今、私たち一人ひとりの胸の中には、この二年間についてのそれぞれの想いが去来しているに違いありません。

二年前、私は小学校教師になるという目標を胸に、この千葉経済大学短期大学部の門をくぐりました。当初は、とにかく目の前にある授業や課題に専念し、自分が努力をすれば、小学校教師としての力が身につくと考えていました。しかし、この二年間でそうした考えは大きく変わりました。勉学に勤しむこと、努力をすることが大切であることは言うまでもありませんが、自分自身の力だけで成し遂げられるものではないことに気が付かされました。周囲の人々の存在、人との繋がりが私の目標の実現に大きく関与していたのだと、今は強く感じています。本日は、この二年間で学んだ「人の存在の大きさ」について述べさせていただきます。

まずは、先生方です。授業を通して多くのことを学びましたが、得たものはそれだけではありません。多忙な日々を過ごされている中で、私たちが相談に伺えば、どの先生も常に親身になって話を聞き、丁寧に向き合ってくださいました。しかも、ただ優しく受け止めるだけではなく、本当に必要なことや大切なことについては曖昧にせず、真っ直ぐに伝えてくださいました。そこには、「受け持つ学生の人生に携わる責任感」があると感じています。そのように関わってくださったからこそ、私たちの心には大きな安心や信頼が生まれました。充実した学生生活の大きな基盤を作ってくださいだったことに、感謝の念は尽きません。

また、仲間たちの存在を抜きにして、短大生活を語ることはできません。私が所属する初等教育コースの仲間たちは、それぞれが異なる良さを持っています。発言や行動に表れる仲間たちの良さは、私の視野を広げてくれました。そして、その良さを取り入れようと努めることで、私の成長に繋げることができたと感じています。特に、実習報告会では、それぞれのよさを活かしながら児童と向き合ってきた仲間たちの実践報告を聞くことで、私自身に不足していたものにも気づかされました。そして改めて、自分自身を開いていくことの大切さや、個性の素晴らしさを再認識することができました。

また、ビジネスライフ学科の皆さん、こども学科の保育コース、キッズビジネスコースの皆さんからも良い影響を受けることができました。目指す道は異なりながらも、自習室、パソコン室、学生ホールなど、様々な場所でそれぞれが努力を重ねる姿を目にすることで、自

分も頑張ろうと自らを鼓舞することができました。こうした数多くの仲間が存在が、努力を継続させるための原動力になっていたのだということを、今あらためて感じています。

学生生活を送るうえで、家族も重要な存在でした。私は、家族のサポートがなければ、この二年間を走りきることは難しかったと考えています。日常生活のさまざまな部分で支えてくれたからこそ、私は学校での勉強に集中することができました。健康を気遣ってくれたこと、相談に耳を傾けてくれたこと、そして私の選択を受け入れ、見守ってくれたこと。そのような思いやりが私をいつも勇気づけてくれていました。

このように、先生方や学友、そして家族の存在こそが、私の二年間の短大生活を支えてくれたのだと強く感じています。おそらく、これは私だけではなく卒業生皆に共通するものでしょう。導いてくれる人、手本になる人、鼓舞しあう人、支えてくれている人、そうしたさまざまな人の存在があって、私たちは自己を高め続ける二年間を過ごすことができたのだと思います。

四月から、私は教師として小学校に勤務します。新しい環境の中でも、先生方や児童との繋がりの中で、他者のよさを見つけ、自分自身に取り入れ、人間性の幅を広げることを大切にしたいと考えています。加えて、小学校教師とは、受け持つ児童の人生に携わり、成長に対して大きな責任を引き受ける役割があると考えています。児童一人ひとりが自分らしく、毎日を笑顔で過ごすことができるよう、そして子ども同士が好ましい影響を与え合い、のびのびと育つことのできる環境を構築していきたいと考えています。それは決して簡単なことではありません。しかし、私たちが過ごしたこの二年間の短大生活はその道しるべとなってくれるはずです。周囲の人の存在に感謝し、人との繋がりを大切にすることで、努力を重ね続ける力が得られると確信しています。

学長先生をはじめ、教職員の皆さま、二年間、本当にお世話になりました。今日、私たちは本学を巣立ちますが、これまでの学びを活かしながら、それぞれの道を邁進し、社会人としての責務をまっとうしてまいります。

また、二年間の歩みを見守ってくれた家族、そして共に学び、高め合った仲間にもこの場を借りて、感謝の意を伝えたいと思います。本当に、ありがとうございました。

最後になりましたが、千葉経済大学短期大学部をはじめ、千葉経済学園の輝かしいご発展を心よりお祈り申し上げ、謝辞とさせていただきます。